

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年2月4日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏名	可児俊信
研究課題	Arter/with コロナでの企業の手当体系の見直しの進展				
研究キーワード	給与 手当 福利厚生 属人的	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	16. 平和と公正をすべての人に	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>新型コロナによって企業の経営環境が急変した。企業は人事戦略の見直しを図り、人材の一層の活用を図る動きが活発となった。</p> <p>そこでは、若手への報酬のシフト、属人的手当の廃止、成果主義への一層の傾斜が起きている。特に大企業ではこの動きが顕著に見える。同時に福利厚生も必要な従業員に与える物から公平に与えるものに移行しつつある。</p> <p>企業への事例ヒアリングによって、大企業、とりわけ製造業において福利厚生制度の見直しが顕著である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平性な給与配分を追求するために、成果や実績に結びつかない手当等の見直し事例が収集できた。 ・慶弔給付のように特定のライフコースを前提とする福利厚生制度を見直す事例も収集できた。 ・著しく低い社宅使用料を見直し事例も収集できた。 ・転勤を減少させることで社宅費用を削減する動きも見られた。 ・福利厚生を公平にするために、カフェテリアプランを導入する事例も多く収集できた。 <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>人事系の実務誌への寄稿 「旬刊福利厚生」「労務事情」他</p> <p>【学会発表等】</p> <p>中部生産性本部、大阪府工業協会</p> <p>3. 主な経費</p> <p>交通費、専門書籍代、専門誌購入代、PC 関連費用</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p>					
(本文は2ページ以内にまとめること)					